認知症の人とその家族が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために

問合せ　高齢介護課地域支援係

認知症はだれもがかかる可能性のある病気です。早期に発見し、症状の進行を緩やかにするための適切な治療やサポートを受けることで、その人らしい充実した生活を続けることができます。認知症になってもあわてることなく、住み慣れたわが家、わが町で安心して暮らしていけるように、認知症の早期発見・早期対応を目指しましょう。

早期発見・早期対応のメリット

●改善が期待できる

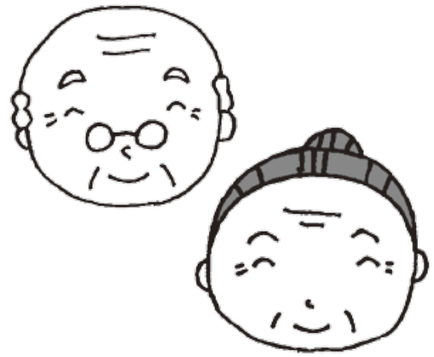
原因によっては早期に治療をはじめることで、改善が期待できるものがあります。

●進行を遅らせる

症状が悪化する前に適切な治療やサポートを行うことにより、進行のスピードを遅らせることができる場合があります。

●今後の生活の準備ができる

症状が進行する前に、治療やサービスなどについて本人と家族で話し合う時間ができます。認知症に早く気づきましょう。



認知症とは

いろいろな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなることで、認知機能が低下し、さまざまな生活のしづらさが現れる状態をいいます。疑わしい症状が現れても「年だから仕方ない」「もともとの性格だから」と見逃しがちです。「もしかして認知症」と思ったら早めにかかりつけ医か専門医療機関を受診しましょう。

加齢によるもの忘れと認知症の違い

加齢によるもの忘れ	認知症
人の名前が思い出せない	その人がだれか分からない
曜日・日時を間違える	月・季節を忘れる
約束をうっかり忘れる	約束自体を忘れる
物覚えが悪い	数分前の記憶がない

認知症簡易チェックシステム

～「これって認知症？」「わたしも認知症？」～

パソコンや携帯電話などで簡単に確認ができます。知っている人の名前が思い出せない、物の置き場所を忘れる、約束したこと自体を忘れる、同じ事を何度も聞く（または言う）など、こんな症状はありませんか。認知症が心配なとき、自身や家族などの身近な人がチェックする目安として行ってみてください。

パソコンの場合は、市ホームページトップページ下部「認知症の方への支援」または「地域包括支援センター」よりアクセスしてください。

携帯電話・スマートフォンでＱＲコード対応の機種をお持ちの人は右のＱＲコードをご利用ください。

進行状況に合わせたサポートを受けましょう

認知症ケアパス

認知症ケアパスとは「認知症かな」と心配になったときから、その進行状況に合わせて、いつ、どこで、どのようなサポートがあるかをあらかじめ分かりやすく示したものです。

認知症は進行とともに状態が変化する病気なので、変化していく状態に応じて適切なサポートを受けることが大切です。なるべく早期から対応法や受けられるサービスを知っておくことは認知症の人の理解やケアにも役立ちます。

詳しくは、市内３か所の地域包括支援センターなどに設置されたリーフレットまたは市ホームページをご覧ください。

認知症地域支援推進員

市内３か所の地域包括支援センターと高齢介護課地域支援係に「認知症地域支援推進員」を配置しています。認知症地域支援推進員は、認知症の人やその家族の相談支援を行っています。また、認知症の人やその家族と専門職とのネットワークづくりや、認知症に関する普及・啓発にも取り組んでいます。

認知症に関する心配ごとや、各種サービス利用などについての相談窓口

地区	窓口	ところ
大浜・中央地区	地域包括支援センター	市役所１階 ☎46-5512
新川・西端地区	碧南社協地域包括支援センター	へきなん福祉センターあいくる ☎46-3840
旭・棚尾地区	碧南東部地域包括支援センター	東部市民プラザ ☎93-1191

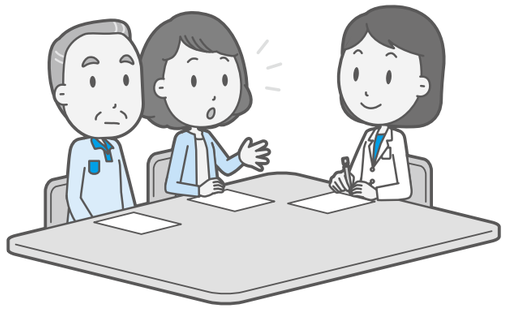
認知症初期集中支援チーム

認知症の早期発見、早期対応を目指して、医師と保健師、看護師、介護福祉士で構成された専門職のチームです。本人の拒否などにより、認知症の受診ができない場合や介護サービス利用につながらない場合などに、チーム員がご自宅を訪問し、必要な医療や介護サービスへとつなげるお手伝いをします。チームは高齢介護課地域支援係に設置されています。

【支援対象の人】

40歳以上の自宅で生活をしている認知症の人、またはその疑いのある人で、以下のいずれかに該当するケース

●医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する人

①認知症疾患の臨床診断をうけていない
②継続的な医療サービスを受けていない
③適切な介護保険サービスに結び付いていない
④診断された介護サービスが中断している

●医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している人